

生きる力

SHINGON

特集

「生きる力」とお大師さま

― 祈りの姿、合掌 ―



生きる力 SHINGON

Vol. 107



稲園山七寺

愛知県名古屋市

とうえんざん ななつてら

東海三十六不動尊第九番霊場
名古屋二十一大師第二番霊場

「ごった煮」の街、大須

今回取材に訪れた七寺があるのは、名古屋市の大須。大須は名古屋城下町の南寺町の中心であり、戦後に本宗別格本山である「大須観音 寶生院」を中心に発展した門前町です。流行りのスイーツや独自の古着文化、ポップカルチャー、電気街、独特な味わいの居酒屋、点在する寺社仏閣、異国の文化などさまざまな要素が混じり合った「ごった煮」の魅力をもった町です。そんな大須の町で、七寺は長い間人々を見守り続けてきました。

七寺の縁起

七寺は縁起をたどっていくと奈良時代にまで遡ることができます。現在まで千二百八十六年もの歴史をもった名刹です。天平七年（七三五）に行基^{ぎょうき}によって尾張国中島郡萱津に正覚院^{しやうかくゐん}というお寺が開創されたのが始まりで、三度の移転の末に大須へと移り現在に至ります。

正式名は稲園山正覚院長福寺^{とうえんざんしやうかくゐんちやうふくじ}といい、七寺という呼称は、延暦六年（七八七）に紀是広^{きのこれひろ}が亡くなった息子の追善供養のため



七寺は開創 1286 年の歴史をもつ名刹。七堂伽藍を誇る寺院でしたが、第二次世界大戦の名古屋空襲によりほぼすべての建物を焼失。本堂は戦後に建て直され、現在に至ります。

に七区の仏閣と十二僧房を建立したことに由来しています。紀是広によって建立された七堂伽藍は水難や兵火によって荒廃してしまいましたが、仁安二年（一一六七）、勝幡城主の尾張権守大中臣朝臣安長が娘の菩提のために、お寺を稲沢市七ツ寺町にあたる場所に移し、七堂伽藍と十二僧房を再建しました。

そして安元元年（一一七五）から治承二年（一一七八）に至る四年間にわたって、安長は書の達人たちに「一切経」を書写させる一方で、阿弥陀如来と脇侍の観音菩薩・勢至菩薩を奉納して七寺のご本尊さまとしました。

寺宝 ― 一切経とご本尊さま ―

四年の歳月をかけて完成した『唐櫃入紙本墨書一切経』は、現在でも寺宝として大切に蔵で保管されています。また奉納された三体の仏像のうち、主尊の阿弥陀如来像は第二次世界大戦の名古屋空襲による戦火で焼失をしてしまいました。観音菩薩と勢至菩薩の二体は現在七寺のご本尊さまとしてお祀りされています。

二体の尊像のお姿からは、これまで歩んできた月日の重みを感じられる一方で、ゆったりとした優美な雰囲気になじみ込まれるような感覚がしました。観音菩薩の光背は焼失してしまいましたが、勢至菩薩の光背は現

存しており、頭の宝冠についていることが多い水瓶が光背に埋め込まれているのは珍しく、その点も見どころです。焼失してしまった観音菩薩の光背にも、同じ位置に化仏の阿弥陀如来がお坐りになっていました。

二体のご本尊さまと一切経はどちらも重要な文化財に指定されており、歴史的にも文化的にも大変貴重です。一切経は四九五四巻のお経が三十一の唐櫃に納められており、特に

『大般若経』が納められている六つの唐櫃は、中蓋や小函に装飾が施されており、他とは一線を画します。そのうち一つが本堂に祀られており、堂内にてご本尊さまをお参りする時に一切経も拝見することができます。

そもそも一切経とは、お釈迦さまが説いた教えが書かれた「経」、守るべき規則が書かれた「律」、注釈や解説が書かれた「論」を一同に集めたものです。七寺の一切経の大きな特徴は、本来ならば一切経に入ることではない「偽経」も納められていることです。偽経というのは、お釈迦さまが直接説いた教えが記されている「真経」ではなく、後世において日本や中国

で作成されたお経のことです。偽経はお釈迦さまが直接説いた教えではないという理由から、一切経に入らず燃やされたりしました。しかし、七寺の一切経には偽経に類するものも納められており、幻の經典と呼ばれているお経や、七寺にしか存在していないお経も含まれていることが近年解明され、大きな注目を浴びています。



①観音菩薩座像（重文）。玉眼がはいっており、柔和で優美な造形が特徴である定朝様式の典型ともいえる表情をしています。

②勢至菩薩座像（重文）。観音菩薩と並び非常に優美で、光背に水瓶が埋め込まれているのが大きな特徴です。

隆盛を誇り、賑わいの中心に

一切経と三体の仏像奉納後、七寺は兵乱によって再び寺塔の大半を焼失してしまいますが、豊臣秀吉の命でお寺を清州へ移し本堂を再建して中興開山、そして徳川家康からの命



- ④大日如来坐像。戦火を受けた材をつなぎ合わせたお姿が、当時の様子を物語ります。
- ⑤寺宝の唐櫃入紙本墨書一切経（重文）。現存する一切経の中で5番目に古く、『大般若経』の納められている唐櫃の中蓋と小函には装飾が施されています。
- ⑥一切経の中蓋。釈迦如来と十六善神が描かれているものが展示されています。
- ⑦住職の蟹江良輝師。清州中興より第21世住職として法燈を今に伝えておられます。

で現在の名古屋の地に移転し七堂伽藍が再建されます。そして、尾張徳川藩の祈願所として多くの信仰を集めるなど、時の権力者から庇護をうけて隆盛しました。当時の地図をみると、七寺は八千坪を超える敷地がある大寺だったことがわかります。春は桜、秋は紅葉で風光明媚、三つの芝居小屋が常設し、池のほとりには茶屋がずらりと建ち並ぶなど賑わいの中心を担っていたそうです。当時のガイドブックにあたる『尾張名所図絵』には「尾張随一の景勝地」と紹介されており、お話を聞く中で当時の賑わいと活気が目に浮かんでくるようでした。

戦争を経て、現在へ

明治時代になると総本山智積院の末寺となり、隆盛を誇りました。しかし昭和二十年、七寺を悲劇が襲います。第二次世界大戦の名古屋空襲によって、なんと一切経の蔵を除く七堂伽藍のすべてを焼失してしまったのです。主尊の阿弥陀如来もその時に焼失してしまい、当時のお話をうかがうと胸がしめつけられる思いがしました。その後、戦後の復興によってなんとか本堂は再建され現在の姿に至ります。本堂の前には、ツギハギの痕がある大日如来が坐しています。そのお体には戦争の爪痕が今でも

残っています。お顔を近くで拝見すると涙を流しているようにも見え、戦争の悲惨さを嘆いているように思えました。

「今の本堂は戦後に建てられた仮の本堂であるから、いつか正式に本堂を建て直したい」と語る、蟹江良輝住職。その言葉からは、長い歴史の中で困難に直面しながらも絶えず続いてきた法灯を未来へ繋げようとする決意が感じられました。名古屋に來た際は大須の観光を楽しみつつ、七寺にもご参拝いただき歴史の重みを肌で感じてみてはいかがでしょうか。堂内拝観をご希望の方は事前に連絡をしてから足をお運びください。

（智山教化センター所員／金剛洋輝 撮影／村中修）



ACCESS アクセス

稲園山 七寺

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須2丁目28番5号

Tel 052-231-1715

車：名古屋高速道路 白川出口より約3分

電車：名古屋営地下鉄鶴舞線

大須観音駅より徒歩約5分

智山寺院探訪スライドショー

掲載しきれなかった写真や見どころを動画で紹介しています



今日の法語 「祈り」

いしもと りゅうほう
石本 隆芳
(栃木県宇都宮市
明星院)

祈り

皆さまはどのような時に祈りを捧げていますか。
日常生活ではお仏壇や神棚に向かって手を合わせる機会が多いのではないのでしょうか。

コロナ禍により先行きが見えない不安な日々が続いていますが、「祈り」は苦しい時ほどその効果があるともいわれております。

祈りの習慣を持つことによって日々の暮らしはさらに輝きを増します。

新たな年を迎えます。皆さまの祈りの力によって安らかな生活が一日も早く訪れますように。





上の合掌の形は金剛合掌といいます。実は合掌には十二種類もの形があります。合掌の形に違いはあれど、その形はどれも尊く、すべての合掌は、仏さまと私たちが一体となる形なのです。

「生きる力」とお大師さま — 祈りの姿、合掌 —

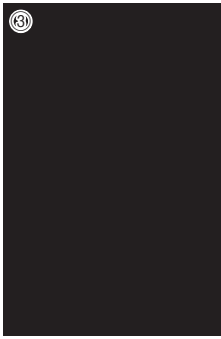
祈る姿

滝川クリステルさんが「お・も・て・な・し」といい、合掌一礼したパフォーマンスが功を奏してか、日本に招致された東京2020オリンピック・パラリンピック。コロナ禍の中での開催には賛否がありましたが、出場を目指して努力されてきた選手たちには、その成果を発揮する場与えられ、その活躍に私もテレビの前で一喜一憂させていただきました。選手や関係者、オンラインで繋がった観客たちが試合直前や結果を待つ間、胸の前で十字を切られたり、手を組まれたり、合掌されたりと一心に祈る姿も見受けられました。その祈る姿に、私も「努力が報われますように」とつい一緒に祈っていました。宗教によりその姿は違えど、一心に祈られているその姿は人を惹きつけ、周りにいる人たちも一緒に祈らずにはいられなくなるような力があるんだと気づかせていただきました。

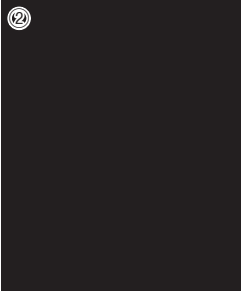
キリスト教の祈りの姿

十字を切ったり、手を組むのがキリスト教の祈りの姿だと思っていたのですが、キリスト教では祈る姿に一切規定はなく、個人ごとに自由な形でよいそうです。オーソドックスな祈りの形として、プロテスタントの場合

「手を組む」、カトリックでは「十字を切った
り、親指をクロスし（十字架を表す）手を合わ
せる」そうですが、両手を広げようと、手で
足をさすってしようと、祈る形にこだわるの
ではなく、祈る行為そのものを大切にされる
のだそうです。聖母マリア像（画像①）や聖
者の肖像画などには合掌している姿もありま
す。アンドレア・デル・ヴェロッキオとレオ
ナルド・ダ・ヴィンチの合作『キリストの洗
礼』（画像②）では、イエスは合掌をされてい
るように見えます。アルブレヒト・デュー
ラーの『祈る手』（画像③）にまつわる感動的
なエピソードは小学校の道徳の教科書にも掲
載されておりますが、その神に祈る手はまさ
に合掌そのものです。



①合掌するマリア像（大浦天主堂）
（©2021 長崎の教会群情報センター）、
②キリストの洗礼」、
③『祈る手』
宗教の違いはあっても、手を合
わせ祈ることに違いはありません。



日常の合掌

多くの日本人は、食事のときに「いただき
ます」「ごちそうさま」と合掌します。これ
は食事を作ってくれた人、食材を育ててくれ
た人、食材となった動植物への感謝のための
合掌ですね。謝るときに合掌し「ごめんなさ
い」「ゆるして」、依頼するときに合掌し「お
ねがい」などは、誠心誠意、心をこめてとい
う意味合いの合掌でしょうか。知らず知ら
ず、自然に手を合わせて合掌する行為が日本
人には身についています。いつ、誰に合掌を
教わったのか記憶にないほど、それは自然と
身につけているのです。



給食での「いただきます」の様子

合掌Ⅱ仏教？

合掌は、仏教独自の作法だと思われていま
せんか。合掌とは文字どおり、両手の掌（たな
ごころ・てのひら）を合わせた形のことですの
で、前述のようにキリスト教でも合掌します
し、日本人は宗教に関係なく感謝の気持ちや
心を込める形として合掌は行われますので、
仏教だけのものではないのです。手を合わせ
るということは、手に何も持っていない。つ
まり、相手に対し敵意はありませんよという
意味もあり、インドやタイなどでは、挨拶す
るとき合掌します。学校給食で、合掌をする
のは特定の宗教行為なので信教の自由に違反
すると、合掌をやめたという学校もあるよう
ですが、これなども「合掌Ⅱ仏教」という考
えからきてしまっているのではないですか。

仏教の合掌

合掌の起源は仏教誕生よりも古く、インド
で敬意を表す行為として行われていました。
語源は「アンジャリ」というサンスクリット
語で、「捧げる」という意味。それが仏教に
も取り入れられ、仏さまに敬意を捧げる形と
して合掌が行われるようになりました。イン
ドでは、右手は食べ物などを扱う清浄な手、
左手は汚れたものを扱う不浄な手とされます。

右ほとけ 左おのれと合わす手の
うちぞゆかしき 南無のひとこえ

と古歌にあるように、右手が清浄な仏さまを、左手は不浄な煩惱のある衆生(私たち)を表わし、仏さまと私たちが一体となる形として、仏さまに対して祈るときにの形となったのです。

真言宗の合掌

真言宗では、手や指で仏さまの教えなどを形に表わす印(印相・印契)を大切にします。合掌もこの印の一つです。お大師さまは「この身、このままで仏になれる」と即身成仏をお説きになられ、即身成仏するためには三密行が必要であると説かれています。三密といってもコロナ禍の中で、皆さまも日々避けている密閉・密集・密接のことではありません。身・口・意の三密といい、身密は「からだの行い」で、手に印を結ぶこと。口密は「ことばの行い」で真言を唱えること。意密は「こころの行い」で心に仏さまを想うことです。祈る形・祈る言葉・祈る心の三つが大切なのです。

合掌の種類

多数ある印の基本が「十二合掌」という

十二種類の合掌です。全てを紹介することはできませんが、皆さま、ちよっと合掌をしてみてください。

左右の手のひらがピッタリくっついて

いる①は、



①堅実心合掌



②虚心合掌



③末敷蓮華合掌



④金剛合掌(帰命合掌)

「堅実心合掌」です。堅実な心、真心を表現した合掌です。手のひらの間に少し空間がある②は、「虚心合掌」です。穢(けが)れのない心を表現した合掌です。手のひらの間がさらに広く卵が入るぐらい空間のある③は「末敷蓮華合掌」です。蓮華のつばみを表現した合掌です。皆さまがされる合掌は十二合掌の中、この三種類に近いと思いますが、どの合掌でしたか。

私たち真言宗の僧侶は、合掌といわれたら④の金剛合掌(帰命合掌)を結びます。仏さまである右手を上(うへ)に各指を交差させて組み合わせた形です。「金剛」は、堅固で決して離れることのない心を意味し、「帰命」は全身全霊、命の限り仏さまを信仰するという意味で、仏さまと私たちが、完全に一体となった

堅固な形を表現しています。

真言宗で用いられるすべての印は正しい儀礼や作法にのっとり、師から弟子に対面で授けられるものです。ですから見よう見まねで行ったものは、同じ形になっても印とはなりません。真言宗が秘密の教え、密教といわれる所以は師から弟子へ対面でしか伝えられないということにもあります。ぜひ菩提寺や真言宗の僧侶から合掌の仕方について教えていただき、その教えられた合掌を日々していただければと思います。

南無大師 遍照と声 初大師

という句があります。本誌前号(二〇六号)で「南無大師遍照金剛」とご宝号をお唱えす

(写真/智山事相事典より)

目次

智山寺院探訪 七寺	2
今日の法語（石本隆芳）	5
特集 「生きる力」とお大師さま	6
お大師さまとご信仰（田村宗英）	10
梵字よもやま話（小峰智行）	11
図解・仏教ガイド	
「マンガでわかる十三仏 ²⁵ 」（漫画・悟東あすか）	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう（佐藤芳典）	14
日本の四季を切り取る十七文字（星野高士）	15
総本山の便りをお知らせします	16
ニンゲンのつくり方（中嶋亮順）	18
ごくらくらくご（三遊亭竜楽）	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言智山派出版物のご案内	23
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波（池田英真）	24
お大師さまのご生涯	
一 お大師さまカルター（川崎一洸・三船毅志）	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる（渡邊淳司）	28
花に聞く 仏に聞く（佐々木隆元）	29
私のお大師さま	
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko（内藤理恵子）	30
ご本尊さまと出会う（小笠原隆浩）	31

る大切さのお話がありました。新年を迎え、初詣や初大師（二月二十一日）に参拝されることでしよう。姿勢を正して合掌し（身密）、「南無大師遍照金剛」とお唱えし（口密）、仏さま、お大師さまに思いをはせ（意密）、それぞれの願いを込めていただきたいと思います。きっとお大師さまが私たちのそばで見守ってください、「生きる力」を授けてくださいます。

（智山教化センター所員／上村正健）
合掌



弘法大師 空海
ご誕生 1250年

令和5年(2023年)

表紙

くっしやろこ
屈斜路湖の寄せ氷と夕日
北海道



屈斜路湖は例年1月下旬頃になると湖が凍り始め、風で湖面の氷が揺れ動くとギューともゴーとも言葉ではいい表せない獣のうめき声のような迫力のある音が聞こえてくる。その氷が割れ風で流されると、このように湖畔に打ち寄せられるのである。

P5

高尾山から望む富士山
東京都



何度も登っている高尾山にはあるが、樹木にたっぷり雪が積もり山々も雪化粧し、綺麗に晴れて富士山が見えることはそう滅多にある事ではない。そんな幸運を噛み締めながら撮影していたが、やがて辺りは雲に包まれていった。

撮影・解説／縄手英樹

令和4年カレンダー発行のお知らせ

令和4年のカレンダーを
2種類ご用意いたしました。
ぜひご利用ください。

(各1部100円) お問い合わせは本誌P.23出版係まで



ポスター
カレンダー(B2版)
「胎蔵種子曼荼羅」

智積院寺宝をポスターサイズで紹介するカレンダー。今回は、仏さまを象徴する梵字(種子)で描かれている「胎蔵種子曼荼羅」を使用しています。

柱かけカレンダー
「今月の法語」

弘法大師ご誕生1250年に向けて、お大師さまの代表的な著作の一つである『卍字義』の中から特徴的な仏教語を集めた月めくりカレンダー。お部屋の柱などに掛けてお使いください。



京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364



宿坊智積院
会館HP

宿坊 智積院会館
一泊朝食付きプラン
8,300円から
(宿泊税・消費税込)
夕食別途3,300円から 消費税込
ご予約・お問い合わせ
TEL 075-541-5363
・JR京都駅よりバス約10分
・京阪電車七条駅より徒歩約10分
※ご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。令和3年12月現在、令和4年6月分までのご予約を受け付けております。
※ご予約は智積院会館ホームページ(左記QRコード)からできます。
※Go To Travel事業者に登録されています。詳しくは、お電話でお問い合わせください。

写経のついで
毎月21日 13時より
於 智積院会館大広間
(納経料千円・要事前申込 定員50名)
智積院阿字観会
毎月12日
午前の部 11時より(受付10時30分より)
午後の部 14時より(受付13時30分より)
※8月と12月は8日
於 智積院講堂
(参加灯明料五百円・要事前申込 定員15名)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)
※8日が土日祝の際は第一金曜日
・大護摩供法要 12時より
・写経会(納経料千円) 14時より
12月8日(水)
1月7日(金)
※新春大護摩供法要 11時30分より
2月8日(火)
納大護摩供法要
12月17日(金) 15時より
於 本堂
やすらぎ寄席
毎月第3木曜日 18時30分より
於 本堂(木戸銭千五百円)
12月16日 二遊亭
1月20日 二遊亭
2月17日 談志一門会
真福寺阿字観会
昼の部15時より
※夜の部は当面の間中止にします。
於 本堂無料・要事前申込 定員10名
1月25日(火)
2月22日(火)

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院

※ご案内の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、延期または中止となる可能性があります。参加を希望する際は、必ず、記載の連絡先へお問い合わせください。